

あかけり

No.350



2018. 1

岩手県勤労者山岳連盟



盛岡山友会



あかげら

1月号

も く じ

-
- 01 縦走路「道具の進化に思うこと」 渡邊 健治
02 今後の日程（事務局）
-
- 03 今後の山行計画
-
- 06 運営委員会報告
10 事務局から
11 第8回女性と登山全国集会報告
12 専門部報告
●組織部
14 行ってきました！
-
- ▲山行報告
15 カモメ森山 中村美栄子
16 新年山行 兜明神岳 つぼ足隊 佐々木善男
-
- 18 70歳を迎えるにあたっての夢 福山 茂和
20 ある日ある時 “<大自然の明暗>” 淡 望天
22 交流の広場



道具の進化に思うこと

No.2 渡邊 健治

今年の新年お雑煮山行でテレマークスキーの金具が壊れてしまった。テレマーク姿勢が取れず、アルペン滑りでなんとか下山した。レースにも耐える最新型を購入して4～5年。使用頻度は高くないのだが、どういう訳か金属のピンがだめになっていた。使わないで置いておくと劣化しやすい。そんな声を聞き、人の体と同じなんだと無理に納得した。

道具と言えば、ワカンは深雪歩きの定番だと思っていた。昨年、仲間に勧められて最新のスノーシューを初めて購入し使ってみた。深雪ではスキーのシール登行と変わらぬ浮力を感じ、急斜面の直登ではスキーに勝る威力を感じた。昔から姿が変わらないワカンに比べ、スノーシューの方は明らかに進化していた。

壊れたテレマークスキーの話に戻そう。10数年前、人気が出始めていたテレマークの快適さに憧れて購入。ところが、運動神経が鈍い私には操作が難しくてなかなか上達しない。修理すべきか、買い替えるべきか。いずれ壊れたままではG銀世界のスキー山行に行けない。悩んだものの、翌々日には某スポーツ店に行っていた。

選んだ道は、アルペン仕様の山スキーの購入。決め手は、やはり道具の進化だった。TLT ビンディングの軽さに一目惚れし、専用登山靴も合わせて高価な買い物となったが、機能、履き心地、使い易さで、昔の兼用靴とは雲泥の差だ。さっそく、網張スキー場で試して道具の進化を実感した。

問題は、道具の進化に人間がついて行けるかだ。山の道具の軽量化は体力不足をカバーし、衣類の性能向上は低体温症のリスクを下げる。GPSは正確に現在地や目的地を示してくれる。携帯電話は山道具ではないが、今や登山の必携品だ。便利になった道具は沢山ある。しかし、それを使いこなせなければ、宝の持ち腐れでは済まず、道具過信で遭難リスクを高めることにもなりかねない。

近年、インターネットは生活から切り離せない存在となった。人工知能や自動運転、IOTなどの話題も多い。アナログ的な生き方をしてきた者にとって、デジタル社会には抵抗もある。しかし、インターネットも人間の道具に過ぎない。上手に使いこなすことで、いくらでも新しい世界が広がり、未知の可能性を引き出してくれる。道具の進化は、使う側の人間の心根次第で良くも悪くも働く。

盛岡山友会も、世の進化に負けないよう、いいものを積極的に取り入れ、将来に向けて活動を深化させていって欲しいと思う。

今後の日程 (2018/2/1～2018/3/6)

行 事		行 事	
2/1		18	▲桐ノ木沢山 (銀世界)
木		日	
2	1/29～2/4 No.234 古川 孝	19	
金		月	
3	☆県連拡大理事会 ▲森吉山 (銀世界)	20	2/19～2/25 No.433 岡 義博
土		火	
4		21	
日		水	
5		22	
月		木	
6		23	
火		金	
7		24	
水		土	
8	▲大師森 大鉢森山 (ウィーク)	25	▲八幡平 (銀世界)
木		日	
9	2/5～2/11 No.382 三浦明夫	26	
金		月	
10	▲八幡平 (銀世界) ～11日	27	
土		火	
11	▲森吉山 (山行企画) ▲赤林山 (四季) ～12日	28	◎2月例会 (勤労福祉会館) 18:45～
日		水	
12	▲東根山 (ゆうゆう)	3/1	2/26～3/4 No.455 大倉 博
月		木	
13		2	
火		金	
14	◎運営委員会 (勤労福祉会館) 18:45～	3	
水		土	
15		4	
木		日	
16		5	
金		月	
17	2/12～2/18 No.416 福山茂和	6	3/5～3/11 No.385 小田嘉洋
土		火	

- ◆「やま・ともサロン」は日程を決めず、会員の希望により随時開放します。ご希望の方はお電話ください。090-4318-5128 (No.19 中村美栄子)
- ◆山行管理専用アドレス: morioka_yamakan@freeml.com

今後の山行計画

* 掲載の山行企画は全会員を対象としています。

【山域/ルート】 森吉山			企画	グループ銀世界
実施日	2月3日(土)	地形図	森吉山(1/25000)	
目的	森吉山の樹氷を楽しむ			
難易度	歩行:★★	荷物:★	技術(無雪期):★★	
コメント	森吉山の樹氷を楽しみ、山頂を目指す			
締切り	1月27日(土)	打ち合わせ	2月1日(木) 銀世界例会	
問合せ	No.380 大峠 連絡先::TEL.090-7068-1104 (メール可)			

【山域/ルート】 大師森 大鉢森山			企画	ウィークデイクラブ
実施日	2月8日(木)	地形図	(1/25000)	
目的	平日山行を楽しむ			
難易度	歩行:★★	荷物:★	技術(無雪期):★★	
コメント	奥州市の2山にヤブごごを期待して行ってみませんか。			
締切り	2月1日(木)	打ち合わせ	2月5日(月)18:30 おでって2F	
問合せ	工藤敬子 連絡先 Tel 019-635-3203 FAX可			

【山域/ルート】 八幡平			企画	G 銀世界
実施日	2月10日(土)~11日(日)	地形図	八幡平(1/25000)	
目的	八幡平の朝焼けを見る			
難易度	歩行:★★	荷物:★★	技術(無雪期):★★	
コメント	八幡平陵雲荘 1泊ツアー。秋田八幡平スキー場より往復。			
締切り	1月27日(土)	打ち合わせ	2月1日(水) 勤労福祉会館 銀世界例会	
問合せ	No305 山田 潔 連絡先::銀世界掲示板 e-mail kyamada0815@ybb.ne.jp			

【山域/ルート】 森吉山			企画	山行企画部
実施日	2月11日(日)	地形図	森吉山(1/25000)	
目的	森吉山の樹氷を見に行きます。			
難易度	歩行:★	荷物:★	技術(無雪期):★	
コメント	樹氷周回コースを歩きます。(ツアーではありません)			
締切り	2月4日(日)	打ち合わせ	2月5日(月) 18:30	おでって 2F
問合せ	千田勝則	連絡先:TEL 019-635-0201		

【山域/ルート】 赤林山			企画	四季の山
実施日	2月11日(日・祝)~12日(月)	地形図	志和・南昌山(1/25000)	
目的	冬の里山でラッセルを楽しむ			
難易度	歩行:★★	荷物:★★	技術(雪期):★★	
コメント	矢巾温泉から登り、山頂付近でテント泊をします。			
締切り	2月4日(日)	打ち合わせ	2月5日(月)	おでって 2F 18:30
問合せ	級木信子	連絡先:TEL 090-2844-9481		

【山域/ルート】 東根山			企画	ゆうゆう
実施日	2月12日(日)	地形図	(1/25000)志和、南昌山	
目的	展望のよい頂上の吹き溜まりを超えて頂上へ			
難易度	歩行:★	荷物:★★	技術(雪期):★★	
コメント	下山後は温泉に入ります。			
締切り	2月4日(日)	打ち合わせ	2月6日(火)18:00	おでって 2F
問合せ	連絡先:TEL 433 岡 義博 080-6542-8871			

【山域/ルート】 桐ノ木沢山			企画	グループ銀世界
実施日	2月18日(日)	地形図	松草・区界(1/25000)	
目的	高原散歩			
難易度	歩行:★★	荷物:★★	技術(無雪期):★★	
コメント	桐ノ木沢山から区界へ尾根歩きします。			
締切り	1月27日(土)	打ち合わせ	2月1日(木) 勤福 銀世界定例会	
問合せ	No.323 三浦良夫	連絡先:TEL 019-663-8668 メール可		

【山域/ルート】 八幡平			企画	グループ銀世界
実施日	2月25日(日)	地形図	八幡平、茶臼岳(1/25000)	
目的	岩手側から八幡平を目指す			
難易度	歩行:★★	荷物:★★	技術(無雪期):★★	
コメント	3年ぶりに岩手側の旧八幡平スキー場から八幡平を目指します。			
締め切り	2月1日(木)	打ち合わせ	2月1日(木) 銀世界定例会	
問合せ	No.279 松田幸久 連絡先:銀世界掲示板 TEL 090-1374-2367(メール可)			

【山域/ルート】 山伏岳			企画	グループ銀世界
実施日	3月10日(土)~11日(日)	地形図	秋ノ宮(1/25000)	
目的	銀世界初めての山を滑る			
難易度	歩行:★★	荷物:★★	技術(無雪期):★★	
コメント	ルートファインディングをしながら秋田の雪を滑りましょう! 山行は1日ですが、小安峡のコテージに1泊して温泉・中間報告会を楽しみます。			
締め切り	2月25日(日)	打ち合わせ	3月1日(木) 銀世界定例会	
問合せ	No.294 松田希 連絡先:銀世界掲示板 TEL 080-3323-2367(メール可)			

あかげら2月号に掲載する山行計画は、書面、メールにて、山行企画部
No.234 古川 孝 090-8923-3120(ショートメール可) mountfuru2@yahoo.co.jp
 までお願いします。締め切りは2月11日(日)です。
 なお、フォーマットは会員専用HP左下の様式ダウンロードを御利用ください。

2017年度 第10回運営委員会報告

出席者確認(出席者数：15/23名) 2018.1.10(水)18:45～20:15 勤労福祉会館

渡邊 中村(美) 石澤 小田(嘉) 高橋(恵) 小原 千田 古川 山田(潔)
福山 辰巳 渡部(彩) 岡(義) 大倉 大森

【進行：渡邊、記録：中村(美)】

1 会長あいさつ

今日の運営委員会は、4月の定期総会に向けた検討のスタートとなります。昨年と同様に、定例会議とメーリングリストを活用し、臨時会議は開かずに運営委員の負担を少なくしていきたいのでよろしく。

2 報告事項・確認事項

(1) 現在の組織状況(1月10日現在)

会員数 101名(男56名/女45名) 登山時報 53部

(2) 各専門部等の取組状況

- ① 山行管理委員会…特になし
- ② 教育遭対部…冬山入門講座(実技)の参加者が少ない。
- ③ 山行企画部…1/6(土) 新年山行25名の参加があった。
- ④ 自然保護部…2/17(土) 冬の自然観察会予定(岳～七折の滝)
- ⑤ 県連理事会…雪崩講習会の申し込み(現在) 初級=11人、中級=2人

(3) その他報告事項…特になし

3 協議・承認事項

- ① 定期総会議案書の検討スケジュールについて…(別記1)
- ② あかげら発行方式の見直し提案について…(別記2)
- ③ 県連拡大理事会の出席者について…理事のほか石澤、中村(美)
- ④ 県連雪崩講習会のスタッフについて…渡邊、中村(数)に依頼

◆当面の予定

1月24日(水) 1月例会	2月14日(水) 第11回運営委員会
2月3日(土) 県連拡大理事会	2月28日(水) 2月例会

☆ 例会の司会と後片づけ

担当月	担当部	担当月	担当部	担当月	担当部
4月/10月	教育遭対部	5月/11月	山行企画部	6月/12月	会報部
7月/1月	組織部	8月/2月	事務局	9月/3月	自然保護部

【別記1】 第32回定期総会議案書検討スケジュール（案）

月日	事項	検討内容	備考
1/24(水)	1月例会(部会)	各部会で一年の総括と方針案を検討	
2/5(月)	各部の報告締切	各部素案を運営委員会MLに掲載	
↓	ML上での検討	素案が最終案になるまで随時修正	
2/14(水)	運営委員会	各部案を持ち寄り検討	
2/28(水)	2月例会(部会)	運営委員会の検討結果のフィードバック	全体意見交換
	定期総会の案内	あかげら掲載(出欠報告締切3/28例会)	
3/14(水)	運営委員会	決算・予算案、事業計画等の検討	
↓	会計監査の実施	会計幹事による決算(見込)の監査	事務局対応
	ML上での検討	最終案の確定/次期役員候補の選定	
3/26(月)	最終原稿の入稿	小松印刷へ発注	事務局対応
3/28(水)	3月例会(部会)	最終案の確認と方針案の具体化検討	
↓	総会開催準備	総会役員候補の人選	
4/4(水)	定期総会	議案書の納品(会場受取)	
4/11(水)	運営委員会	運営委員の役割分担、方針の具体化等	

【お願い】各専門部等の報告フォーマットについて

2017活動方針の該当項目ごとに、総括案と方針案を以下の形式で作成・報告をお願いします。

【報告フォーマット】(参考例)

5 山行企画部(多彩な山行計画を！)

(1) 魅力ある山行計画の実現

- ・会山行は学びの場、会員相互の交流の場でもあります。そのためには志向別グループや専門部、個人企画による魅力ある企画を多数提案してもらい、会員への案内を行うとともに、山行企画部独自の魅力ある山行を4月以降12月まで原則月2回企画し、プラスアルファ山行などユニークな山行を随時企画し提供できるようにします。

【総括案】

○○○・・・。

【方針案】

○○○・・・。

【別記2】

あかげら発行方式の見直しについて（経過報告）

1月10日の運営委員会で、あかげら発行方式の検討を行いましたので、その概要を報告します。以下の枠内は、検討資料として示したもので、目的や方針等は決定事項ではありません。今後、例会の場などで会員の声も聴きながら、運営委員会で引き続き検討を行い、4月の定期総会の方針議案に反映させたいと考えています。

〔運営委員会の検討資料〕（抜粋：一部修正あり）

1 これまでの経緯

2017年度定期総会において、あかげらの発行方法に関して以下の活動方針が掲げられました。この方針に従って、全会員を対象にアンケート調査を実施（回答率 71.3%）したところ、2/3（67.6%）の会員からメール配信（PDF 発行）のみでよいとの回答がありました。

この結果を受けて、12月の運営委員会（2017.12.13）において、総会方針どおりに来年度からメール配信（PDF 発行）を原則とし、希望者には印刷冊子を配付することを確認しました。

【2017 活動方針抜粋】

- ・あかげらの印刷費及び郵送費が会財政を圧迫してきていることから、次年度（2018年度）に全面的にメール配信に切り替えることを目指し、今年度は会員の理解と協力を得ながらメールのみ配信者の拡大に取り組みます。
- ・なお、次年度以降に、原則メール配信とした場合にも、印刷物が欲しい会員にはプリンターで印刷したものを配付するとともに、メールのみ配信者への会費減免措置についても検討します。

2 会員アンケートの結果

- 回収率 71.3%（72人） インターネット環境あり 93.0%（66人）
PDFのみ可 67.6%（48人） 印刷冊子希望 32.4%（23人中ネットなし6人）

3 目的の整理

運営委員会における一連の議論を通じて、総会方針に掲げた財政上の問題に加えて、編集や発送に多大な労力を要していることなど、いくつかの課題が明らかになったため、見直しの目的を以下のとおり改めて整理した。

《見直しの目的》

- (1) 財政支出の半分を占める印刷・郵送経費を縮減し、会費負担の軽減を図るとともに、会山行や技術研修などの活動予算の充実を図る。
- (2) ホームページや SNS などネットによる情報交流が普及する中で、ネット機能を積極的に活用することで、幅広い年齢層に受け入れられる新時代の山岳会を目指す。

4 基本方針案

前記の目的を踏まえて、見直しに当たっての基本的な考え方を以下のとおりとする。

- (1) あかげらの発行は、PDF 版のネット配信を基本とし、希望者には印刷物を配付する。
- (2) 発行形態の見直しで削減された経費は、ネットによる情報発信の充実に活用するとともに、会費負担の軽減や山行活動の充実など、会員の願いに応える活動の資金に充てる。
- (3) 印刷物を配付する会員には、公平性の観点から印刷実費に相当する額を負担してもらう。

5 具体案の検討

(1) 印刷経費の比較 (B5判 30頁相当分を 40部印刷の場合)

A: 小松印刷	単価 460 円	印刷費 (年) 220,800 円	節減額** -79,200 円
B: ササエイゼムズ	単価 158 円	印刷費 (年) 75,840 円	節減額** -224,160 円
C: 自前印刷(A4判)	単価 37 円	印刷費 (年) 29,310 円	節減額** -270,690 円

※ 節減額とは、小松印刷 100部 300,000円との差のことです。

なお、印刷方法の別は、A:小松印刷は従来通りの印刷製本、B:ササエイゼムズはコピー、C:自前印刷はインクジェット印刷です。

■ 主な意見と確認事項 (1/10 運営委員会)

運営委員から発言のあった主な意見と、会議での確認事項を以下に示します。

【主な意見】

- ① 冊子会員の実費負担については、郵送料も含めた検討が必要ではないか？
- ② 実質賃金の減少が続く中で、会費値下げは若い世代の入会を促す効果が期待できるのではないか？
- ③ 若い世代が入会しないのは、当会の活動が知られていないからではないか？
一般向けの講習会などを充実させて認知度を高めることが必要と思う。
- ④ 現会費は 30 年以上変わっておらず、決して高いとは思わない。
- ⑤ 会費見直しについては、他会の会費と比較しながら検討した方がよいのではないか？
- ⑥ 印刷方法の選択肢で、自前印刷は会員の負担軽減に逆行するものではないか？

【確認事項】

- (1) あかげらの発行は、新年度から PDF 発行を基本とし、希望者にのみ印刷冊子を配付する。(切替時期と印刷冊子の実費負担については次回協議とする。)
- (2) PDF 発行に伴い各自がプリンター印刷する利便を考慮して、現行の B5 判を A4 判に切り替える。
- (3) A4 判化に伴う構成の見直しについては、会報部で検討することとし、基本的な方針を 4 月の総会に提案する。切替時期は、新年度体制の下で準備期間を置き決定する。
- (4) 印刷冊子の作成は、自前印刷は行わず外部発注とする。ただし、経費節減のため、A3 判中折りホッチキス止めとし、製本作業のみ自前とすることも検討する。(アウトドアの会の手法を参考に)
- (5) 会費を含む予算配分の見直しについては、印刷・郵送費の負担実態や他会の会費の状況などを調べた上で、次回の運営委員会で改めて検討する。

(報告者 渡邊)

事務局から

☆ 会員動向 (1/12現在)

会員数 101名 (男56、女45) 登山時報 53部 (増減なし)

☆ 会費納入について

今年度の会費等 (会費・遭対基金・登山時報代) について、未納の方は早めの納入をお願いします。

遭対基金 (新特別基金) について、口数の変更は早めにお知らせください。

登山時報については、新規購読又は中止の場合は2月中にお知らせください。

☆ 例会の司会と後片づけ担当

担当月	担当部	担当月	担当部	担当月	担当部
4月/10月	教育遭対部	5月/11月	山行企画部	6月/12月	会報部
7月/1月	組織部	8月/2月	事務局	9月/3月	自然保護部

本日の会場担当は 組織部です
2月例会は 2月28日 (水) 18:45～

原稿のお願い

2月号の原稿締め切り

◎ 2月10日 (土)

※手書き原稿の場合は、2日前までとします!

原・稿・の・基・準

■サイズ: B5

■本文枠: 幅14cm・縦22cm以内 又は 余白: 上・下・右・左20mm

■本文のフォント: 10~12ポイント、明朝体、またはゴシック体で

※編集作業中に文字化けする可能性がありますので、フォントは守って下さい

□ 送り先 ◎手書き原稿 (郵送)

会員No.357 渡部 彩子

〒020-0632 滝沢市牧野林 1047-66

Tel 090-7528-1968

◎メール原稿

会員No.301 久保 加世子

メールアドレス k-kubo@mba.nifty.ne.jp

女性委員会創設 40 周年記念 第 8 回女性と登山全国集会報告

No.204 村上 明枝

12月2日~3日、埼玉県の国立女性会館を会場として開催された集會に、岩手県連から4名（盛岡山友会：中村美栄子、小川優子、村上明枝、アウトドア：増田友子）が参加してきました。北は北海道から南は長崎まで、全国から103名の仲間が集まり、熱気あふれる討論が行われました。



第1分科会 「若者が考える労山」に参加して

小川優子

各会の平均年齢が上がってきていて若者の入会を求めているなかで、公開登山・登山教室等で募集している。また若者はHPを閲覧して情報を得たりしているので更新をこまめにする。入会すると、若者への期待が大きすぎたり仕事とも両立が難しく続かないので、同期会やベテラン中堅新人の3人組を作ったりしている。一緒に行かないと伝わらないこともあるので対話を大切にする。子どもと一緒に山に行くために親子ハイク、冒険学校を企画し、自然に触れ合う機会を作ったりしている。

今回参加して、どちらの方も真剣に未来を考えていらっしゃいました。今後のためにどうすべきなのか、とても良い刺激になりました。

第3分科会 「女性委員会活動」に参加して

村上明枝

西日本では、女性のための登山教室、女性交流登山、搬出・救急法・テーピング・山筋ゴーゴ一体操等の学習会等々、女性独自の活動を行っている県連が多くありました。県連の女性委員が企画広報活動を行い、所属会を超えて女性会員相互の交流やスキルアップがなされているようです。女性の自立した登山をめざして、女性の視点で登山を考える・・・このあたりに女性委員会の存在意義がありそうです。「まず、やれるところから始めてみたら？」の後押しを受け、岩手県連でも女性が発信元となって、女性ならではの楽しい企画ができたらいな！と、ちょっと前向きな気持ちになりました。全国のエネルギッシュな女性パワーに触れ、元気をもらえた2日間でした。



藤元女性委員長、石田良恵先生、宮城県連の森谷さんと一緒に♪

夕食交流会では、全国連理事長の落語も！
〜



専門部報告

● 組織部

納山祭の報告

昨年、12月1日にホテルルイズで開催された納山祭は、参加者41名と2015年の納山祭と顔ぶれは違いますが全く同じ人数でした。

オークションでは、常連の久保さんをはじめ新しく入会された方からも出品をいただき、合計11,300円の売上げがあり、その内7,950円を会の収入としてお渡しすることが出来ました。出品にご協力いただいた方、本当にありがとうございました。

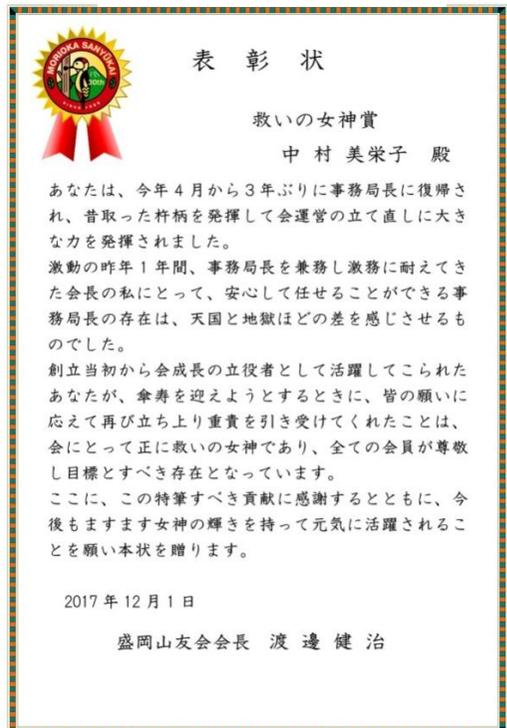


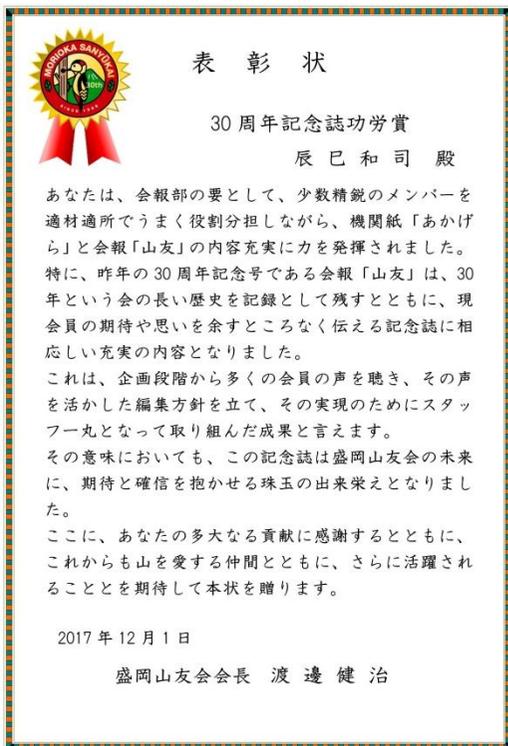
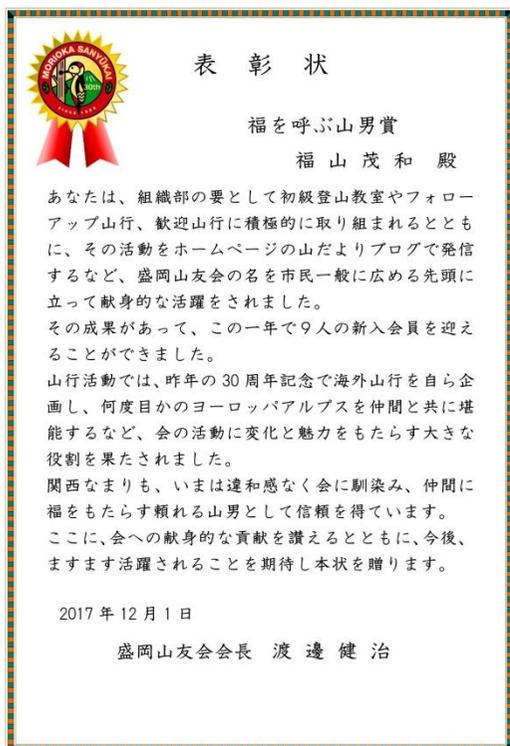
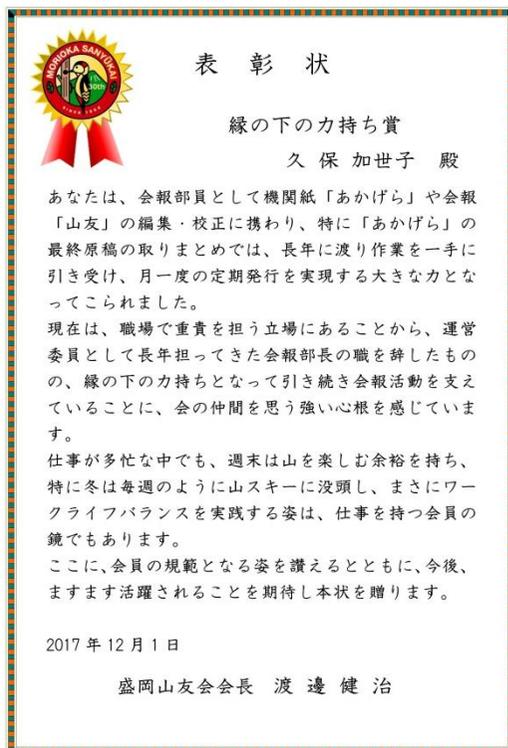
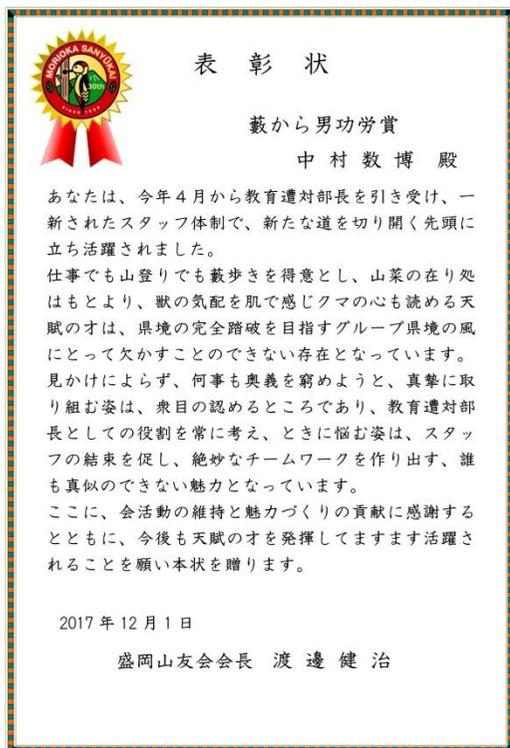
No. 19 中村美栄子さん

今回も飲み放題で5千円、アルコール抜きの方で4千円の会費設定でしたが、やはり料理の面では少し物足りなさもあり、今後の課題として残りました。

ただ、参加人員を考えると、ホテル等の広間の利用しか考えられず悩むところです。幹事としては金銭管理が不要な飲み放題が便利ではあるのですが、今後は料理に3千円で、残りの2千円で会場費、看板、飲み物等をまかなう方策も考えていく必要があるかと思っています。

今年の表彰者は、中村(美)さん、中村(数)さん、久保さん、福山さん、辰巳さんの5人です。「表彰名」及び「表彰内容」は表彰状をご覧ください。





行ってきました!

[12月18日～1月14日現在]

No.	月日	山域	ルート	目的	参加者名	会	分類
1	12月18日	鞍掛山 (897.1m)	相ノ沢コース(西コース往復)	雪を楽しむ	I岡(義)・S高橋(恵)・太田代・吉田(成)・小田(春)	5	会
2	12月23日	女助山 (609.5m)	外舛沢地区コース	里山に登る	I本間(典)・S加藤(桂)・小田(嘉)・小田(春)	4	個人
3	12月24日	東根山	ラ・フランスコース	冬山トレーニング	I中村(美)・S工藤(敬)・北田・綴木	4	個人
4	12月25日	兜明神岳 (1,005m)	区界高原口～山頂往復	トレーニング	I岡(義)・S高橋(恵)・太田代	3	個人
5	12月30日	赤倉岳	県民の森～七滝～赤倉岳往復	新ルート開拓	I古川・S山田(潔)	2	個人
6	1月2日	岩手山	御神坂コース	2018年初山行	I松田(幸)・松田(希)〔会員外〕1名	2	個人
7	1月6日	兜明神岳	ウォーキングセンター～山頂往復	新年お雑煮山行	I千田(勝)・I中村(数)・S日比野・S本間(典)・中村(美)・工藤(敬)・加藤(桂)・小田(嘉)・小田(春)・岡(義)・太田代・高橋(陽)・佐々木(善)・山口・大倉・	16	会
8	1月6日	兜明神岳・岩神山	ウォーキングセンター～山頂往復	新年山行	I古川・S山田(潔)・府金(志)・高橋(英)・大峠・三浦(明)・小原(耕)・舟越・渡邊	9	会
9	1月6日～1月7日	岩手山	屏風尾根	屏風尾根から岩手山を目指す	I松田(幸)・松田(希)	2	個人
10	1月7日	金壺山 (502m)、田沢山 (612m)	矢幅温泉コース、秋葉神社コース	里山に登る	I本間(典)	1	個人
11	1月7日	八幡平・茶臼岳	八幡平アスピーテゲート前～山頂往復	新年山スキー始め	久保〔会員外〕3名	1	個人
12	1月8日	姫神山	一本杉～山頂～こわ坂	ラッセル体験(名山歩こう会)	I中村(美)・S日比野・遠藤(千)・工藤(敬)・本間(典)・佐々木(善)	6	会
13	1月10日	鞍掛山	相ノ沢コース(右回り)	トレーニング	I岡(義)・S高橋(恵)・太田代	3	個人
14	1月13日～1月14日	三ツ石山 (1,466m)	網張スキー場ピストン	小屋泊まりで冬山を体験する	I山田(潔)・S古川・小原(耕)・村田・舟越	5	会
15	1月14日	鞍掛山	相ノ沢コース	トレーニング	I高橋(陽)	1	個人
16	1月14日	高洞山 (521.8m)	米内駅～山頂往復	雪の高洞を登り、テント設営訓練	I岡(義)・S吉田(成)・川村(雅)・高橋(恵)・加藤(桂)・太田代・小田(嘉)・小田(春)	8	会
17	1月14日	田沢山・不動岳	秋津神社～田沢山～不動岳往復	冬山トレーニングとルートファインディングで縦走路を目指す	I日比野・S本間(典)・中村(美)・工藤(敬)・遠藤(千)	5	個人
18	1月14日	小松倉山・大松倉山	網張スキー場～大松倉山～小松倉山～奥産道	新設の大松倉から奥産道へ滑る	I大峠・S徳永・府金(志)	3	会
19	1月14日	姫神山	一本杉コース	トレーニング	I高橋(英)	1	個人

注：これは、あくまで速報的なものですので、掲載もれや誤り等がある場合はご容赦ください。

山行報告



カモメ森山 (325, 8m) (釜石市)

No.19 中村美栄子

日程 : 2017年12月10日(日)

参加者 : CL千田勝則、SL本間典、工藤敬子、熊谷久美子、北田絹恵、級木信子、加藤桂子、中村美栄子

行程 : 盛岡南IC 6:30~(釜石道)~根浜・箱崎白浜(大沢遺跡)
8:45発~お宮9:20~頂上9:50/10:05~駐車場10:45

震災復興のため至る所の道路が変わっていて戸惑う。再建中の鶴住居駅を右に見て、曲がりくねった箱崎半島の道を進み大沢遺跡の広場に着く。

潮風トレイルの道を10mほど進むとすぐ右手に、消えかかった登山口の標識がある。ふかふかの杉林を登る。二股に分かれた面白い大木があり、みな大笑い。間もなく小さな鳥居と祠(一ノ内権現というらしい)があり、そこを左に曲がって稜線を進む。頂上かと思われる小さなピークを越えるとその先に頂上があった。二等三角点があるから頂上とわかるが眺望はなく、左に少し進むと眺望の良い場所に出る。眼下に大槌湾、遠くに鯨山・霞露ヶ岳などが見える。下山はあっという間に車に戻る

<おまけ>

下山後、半島の先にある御箱崎灯台まで歩くことになる。約4キロの車道を(気分的に)延々と歩く。葉の落ちた木々の間から海を眺めトイレのある広場に着く。千畳敷と云われる岩場で釣りをしている人が見え、途中まで降りてみる。

灯台は思ったほど大きくはなく(むしろ小さい)そこで昼食とする。

(写真:本間典さん)



御箱崎灯台





新年山行 兜明神岳 つぼ足隊

No. 477 佐々木善男

日時：2018年1月6日（土） 天候：曇り

メンバー：CL千田 勝則 SL本間 典 中村 美恵子 工藤 敬子 日比野 保子 中村 数博 加藤 桂子 太田代 恵久子 高橋 陽子 小田 嘉洋 吉田 成子 小田 晴美 岡 義博 大倉 博 山口 斉 佐々木 善男 16名

コースタイム：8時区界高原ウオーキングセンター到着、スキー隊／つぼ足隊別れて8時30分登山開始→9時30分兜山荘着→9時45分兜山荘出発→兜明神岳山頂近辺10時5分→10時20分に兜山荘へ戻る→11時15分スキー隊兜山荘へ到着→昼食→12時20分兜山荘出発→12時40分区界高原ウオーキングセンターへ戻る。

当日、都南大橋に集合し車7台に分乗し宮古街道106号線で区界を目指しました。道路は雪も殆どなくスムーズに進み、30分でウオーキングセンターに到着しました。



簡単なミーティングを行い、スキー隊（渡邊会長 三浦副会長 古川 孝 山田 潔 府金 志磨子 高橋英里子 大峠 茂喜 小原 耕 船越 茂雄）と別れて、ワカン装着し登山を開始しました。登山コースは踏み固められており冬でも多くの人がこの山に登っていることがわかります。最初の登りはそこそきつめの角度でした。積雪は多くなくワカン無しでも問題ない程度でしたが訓練のためワカン装着で登りました。登り切って平坦に近い登山道になり、出発から約1時間で兜山荘に到着しました。兜山荘で雑煮用の食材／水を置いて食事当番の方々をお願いして、10名で兜明神岳を目指して出発しました。

山頂目指して岩場を登りましたが強風と岩と雪で、山頂直下で写真を撮り引き返しました。

山頂付近は風が強く気温も低くほっぺが超冷たかったです。(車で来る途中で立ち寄った道の駅の温度計で-5℃でした。山頂は?℃)

兜山荘は、まきストーブがあり大きなテーブルがあり椅子もあり、スキー隊+つば足隊で総勢25名でも椅子に座ってテーブルで昼食が可能でした。

11時15分頃にスキー隊が兜山荘に到着し、11時30分頃から昼食となりました。



餅が2個入った大変美味しいお雑煮でした。お雑煮2杯、餅4個頂きました。あま酒、から芋の漬物、かぶの漬物等々、ミカンも頂きました。食事当番の方々本当にありがとうございました。(私は持参したおにぎりは食べませんでした。頂いたものでおなか一杯)

ひとりひとり全員で今年の目標、豊富等についてスピーチしました。今年も、山行に行きたい、誘ってほしい、一緒

に行きましょうということだったと思います。

火の後始末、掃除等行い、12時20分に山荘を出発、登りと異なるコースを下山しました。真っすぐウオーキングセンターへ下る感じの道で、隣をスキー隊が気持ち良さそうに颯爽と滑って追い抜いて行きました。20分でウオーキングセンターに到着しました。

天気に恵まれ、美味しいものを頂き、今年も山友会の仲間と一緒にいきましょうということを確認した新年山行だったと思います。



70歳を迎えるにあたっての夢

No.416 福山茂和

今年の4月で私は70歳の大台に乗っかることになり、体力・財力(へそくり)も徐々に落ちていくのは明らかですので、この辺で人生最後?の海外山行として色々と地図の上で夢を描いてみました。従来からの夢だとバルトロ氷河(パキスタン K2)が最優先なのですが、パキスタンの政情やその他のリスクを考えると山以外での事故は出来れば避けたいと思い、その他の地域で検討を進めると最終的にネパールヒマラヤ地域でのトレッキングとなりました。

ネパールヒマラヤのメインのトレッキング地域としては、エベレスト及びアンナプルナ周辺のトレッキングとなります。今回、どこにするか色々と悩んだ結果、飛行機の運航リスク及び高度障害のリスクの少ないアンナプルナへのトレッキングを考えてみました。

日程的には、2018年の10月から11月に掛けて18日間で下記の様な旅程を現地の地図とにらめっこでまずは決めて、現地の日系旅行代理店へ見積もり依頼を行いました。

- 1日目～2日目 盛岡→青森→ソウル→カトマンズ(ソウル泊)
 - 3日目～6日目 カトマンズ→ポカラ→アンナプルナ B.C.※1
 - 7日目～12日目 アンナプルナ B.C.→コプラダнда※2
 - 13日目～15日目 コプラダнда→ポカラ
 - 16日目 ポカラ→カトマンズ
 - 17日目～18日目 カトマンズ→ソウル→青森→盛岡(機中泊)
- ※1 アンナプルナ B.C.: 4130m(B.C.はベースキャンプの略)
※2 コプラダнда: 3660m(ダндаとは「丘」のネパール語)

現時点での費用は *二人参加時 ドル換算は、115円/ドル

内 容	費 用
盛岡～青森空港往復(大人の休日倶楽部使用)	9,324 円
ソウル～カトマンズ往復	108,160 円
ソウルでのホテル	8,000 円
カトマンズ、ポカラでのホテル	13,800 円
現地旅行代理店支払い 3日目～17日目までの全て(交通費、宿泊費、 ローカル食での3食、日本語ガイド、ポータ)	191,130 円
その他(ビザ、ホテル宿泊時の食費等)	29,586 円
合 計	360,000 円

もし、行ってみたいと思う方が居られましたら416 福山まで2月末頃までに連絡ください。参加希望の方で打合せて具体化したいと考えています。

“大自然の明暗”

明るいとか暗い、どっちがいい？

正月といえば、＜明けまして＞・・・となる。＜暗くなりまして＞は論外。暗いより明るい方が＜いい＞のだ。日は昇り日は沈む。どっちがいいかとなれば、明るくなる昼のほうだろう。昼間ならば、自分を襲う敵の姿が見える。夜の暗闇の中では、いつ何が飛び出すか分からない。びくびくしなければならぬ。洞窟とか樹の上の隠れ家で、安眠できる場所に身を潜めるほかない。とはいえ、昼間は、敵が見えるけど、敵にも見られる。身を隠すには暗い方がいいとなる。不安や恐怖の源が闇の中から生まれるが、同時に、闇という隠れ家だからこそ、身を守り、安心できる。さて、どっちがいいのだろう？

御来光はなぜただの朝日じゃないのか？

＜御来光＞を拝むとなると登山しなければならぬ。暗く急峻な登山道を登り、山頂に立つ。太陽の登るのを待つ。しかし、朝、外に出れば、どこでも太陽を拝める。なにも高い山の上から見る必要もない。太陽を崇拝するなら場所を選ばずのはず。日は昇り日は沈む、の繰り返し。の毎日だ。当たり前だから、御来光だという感激も生まれないはずだ。じいちゃんは毎朝、朝陽に向かって拍手を打って、礼拝していた。孫の自分はその姿を見ていたが、じいちゃんの後継ぎにはなっていない。じいちゃんのような信仰心はすでになくなっていて。という自分でも、はあはあ言いながら山頂を目指し、寒さに震えながら御来光を待つ。太陽が眼下から金色の衣をまとって、少しずつその姿が現われるのを待つ。ぽっかりとその丸い姿を現す瞬間はいい。ただの朝日ではないと思う。

光だけあればいい？

では、光さえあれば、感動や崇拝の気持ちが生まれるのだろうか。もし夜のない国とか、沈まぬ太陽の国に行ったらどうなるだろうか。実際、北極とか南極の白夜とかは沈まぬ太陽の国なのだ。その反対は、夜ばかりの極夜もあるが、すくなくとも、昼だけの国、あるいは夜だけの国には御来光はない。冬の乳頭山に登った時、視界ゼロのホワイトアウトを経験した。頂上直下の氷結した雪の急坂を、スキー板を横滑りさせながらこわごわ下りる。平坦地になり、氷の斜面から雪面になり、ほっとして斜面を下る。そのとき頂上では見えていた景色が突然見えなくなった。まったくの無風状態となり、白い濃い霧が視界を奪う妙な白っぽい明るさだ。でも、視界が効かない。スキーだからちょっと滑っても、とんでもない場所まで行ってしまふ。いったん停止して、GPSの助けを借りる。やはりルートを外れている。周りが見えているときは、なんの心配もないルートなのに。真っ白な霧で、むしろ明るい。なのに、なにも見えない。影がないのだ。影があれば、太陽の位置が分る。そうすると北か南かが分かる。明るいのだが、影がない、ホワイトアウトだ。自分の位置取りが全くできない。

無明の闇と心の闇

無明の闇ということばがある。明りがないのだから、闇ということだ。もっとも仏教の世界でよく使われる言葉だから、心の闇の問題になる。人間は考える動物だ。だがそれが原因で生まれる落とし穴がある。考えるほど悩みが多くなり、何が何やらわからなくなる。煩惱にとら

われると仏教ではいうようだ。とりわけ生死の問題はいくら考えても分からない。死後の世界は人類史上誰も分かっていないからだ。死に向かって生きていることは分かる。だが、どのような方向へ向かうのかは誰も教えてくれない。一人一人の問題だ。出口のない真っ暗な部屋に置かれた状態だ。少しでも光が漏れてくるなら、その方向に進むだろう。ところがその光がない。



「屋根の上のヴァイオリン弾き」

無明なのだから、進むべき方向（光）が分からない。

「明けない夜」か「日は昇り日は沈む」か

無明の闇は明けない夜だ。悩む心（煩惱）には永遠に夜明けが来ない、永遠に救われなくなってしまう。こうなると自暴自棄、自死しかないとなってしまう。ところが、救いのことばも用意されている。＜明けない夜はない＞というわけ。うん、そうだよなと納得する。この世にいる限り、生物であれ、無生物であれ、誰にでも何にでも昼と夜が訪れる。人間であれば明けない夜はないことを日々体験し、意識している。一時的には、破産、病気などに襲われ、無明の闇を実感する場合もあるとしてもだ。煩惱という明

けない夜は人間が作り出す闇だ。ところが、自然界には永遠の闇はない。日は昇り日は沈むのだから。

欲望という名の電車

文明という名のもとに、闇を一切追い払った＜明るい闇＞（ホワイトアウト）の世界が生まれた。不夜城という大都会の世界こそ欲望という名の電車が走る場所。この電車に乗ると煩惱の世界から抜け出せなくなる。文＜明＞という明るさが盲目を生み出す。ホワイトアウトの明るさ、先が見えない闇と同じなのだ。明るい時には影を、暗い時には光が必要だ。では誰がそれをやってくれるのか。それは大自然の中に身を沈めるだけでよい。

煩惱と夢の違い

煩惱は無明の闇を作る。ではいつどこで煩惱は生まれ育つのだろうか。人はよりよい人生を求めている。夢や希望は夜眠っているときに生まれる。朝になり目覚めると、現実という明るさにさらされる。再び夜になり、夢や希望は現実化への変化が起こる。夢は何度も夜と昼の間を往き来して、夢想から理想へと変化していく。ところが、この昼の明るさ嫌い、夜の世界だけに夢や希望を閉じ込めようとする人がいる。昼という現実を拒否し、夜しか見ない夢は空想となる。反対に、自然のもたらす明るさから逃げ、人口の明かりに夢を閉じ込める人もいる。その光を与えるのが、不夜城の大都会であり、人間社会。自然界を拒否した場所だ。大都会の夢や希望は煩惱という妄想に変質する。一方大自然の中の、夢や希望は夜の暗さから生まれ、昼の自然光によって夢の現実化に向かう。昼という現実だけしか見ない夢は妄想になる。夜と昼、光と影、明と暗。大自然が惜しげもなく与えるものだ。夢を現実化し理想へと変質するためには、大自然の明暗に身を沈めさえすればよい。

なぜ山に登る？

なぜ山に登るのか、「そこに山があるから」ではない。ほんとうの答えは分からない。ただ、山は大自然の力を身近に感じさせる場所。この世はもう終わりだという末法のもたらした無明の闇も、文明による＜白の闇＞（ホワイトアウト）も捨てよう。大自然のもたらす明暗に身を任せよう。観念に閉じ込められた無明の闇も、欲望という名の電車にとじこめられる白い闇も、自然が生み出す明暗の律動によって、夢想や妄想を追い払ってしまおう。

交流の広場

山岳会のデメリットとメリット

山岳会とは…（世界大百科事典より）

登山を愛好する人々によって組織される団体。小は 2～3 人から数千人の大きなものまである。また全国的なもの、地域的なものがあり、その性格も、男性のみ、女性のみとか、職場、学校などに限定されるもの、ハイキング中心のもの、岩登りが多いもの、ヒマラヤ登山中心のものなどさまざまである。登山は個人では限界があり、また友人と行くことが楽しいので、組織的行動により、安全で、よりよい行動を行っていかうとするところに、山岳会を組織する意義があるといえよう。

盛岡山友会も山岳会のひとつです。山岳会に入ることを選んだ理由は人それぞれと思いますが、入会してみて皆さんはどう感じているのでしょうか。

山岳会に所属するデメリットとして一般的に多く挙げられているのは、会則があるのでルールを守らなければいけないことです。

その一例として「山行管理」があります。

山岳会の基本としては、会員がどのような山行をしているのかを把握して有事のときは対策をとるのだそうです。

また、労山新特別基金の細則 [山行規定] には

1. 団体は会員の登山活動を事前に管理する
2. 事前管理には、技術教育、指導、訓練、健康管理、個別の山行管理を含むとあります。

これらの恩恵にあずかる以上は計画を提出しなければなりませんし、山行に無茶があると会が考えるときには指導や待たがかかります。

対して、山岳会に所属するメリットは登山技術の習得ができることや仲間との楽しい山行

が挙げられます。

登山技術の習得については、山岳会に所属していると会の講習会は無料で受講できます。県連や労山主催の講習会にも参加することができます。また、先輩と一緒に山行する中で、いろいろと学ぶこともできます。

仲間ができること、これは少し時間がかかるかもしれませんが。例会に足を運んで先輩に声をかけてもらったり、ドキドキしながら山行に参加したり、各専門部の活動に参加して少しずつ楽しくなっていけば、山岳会に入っ

てよかったと思えることでしょう。単独では行けないハードな山行や、マイナーな山に行けることも山岳会に所属しているメリットでしょうか。

山岳会に入っ

てのデメリットとメリットは他にもいろいろあると思いますが、両者を比較してみたいか

がですか？
入会したばかりの方はせっかく入会したのですから、おおいに活動してから比較してみてくださいね。

会報部員のひとこと

2019 年も山友会が安全で楽しく温かい会ですように！
今年度は“あかげら”についていろいろと検討されています。あかげらの原稿、依頼されると“大変だな～”と感じる方も多い事でしょう。

でも、原稿を読んでその人を知ることができますし、会話のきっかけにもなります。

これから“あかげら”がPDF版になって構成内容が見直しになったとしても、会員同士が互いを知り合える機会があるといいですね。

“あかげら”が山友会の活動に大きく貢献してきたこと、これまで“あかげら”の編集に関わってきた先輩たちに感謝して、ひとつの転機を迎えたいと思います。

(希)

■□ 表紙の言葉 □■

— 「冬の星座」 —

冷たく、ピンと張りつめた、澄んだ空気
雪の上に寝転んで、満天の星空を見上げる
果てしない宇宙に、吸込まれそうな感覚
星座のうんちくなど、無くてもいい
幾千もの瞬く星たちを、
いつまでも、いつまでも、
眺めていられそうな気がした。

No.460 杣澤 瑠実子

あかげら 第350号

2018年1月24日

発行者 盛岡山友会 会長 渡邊健治

編集責任者 盛岡山友会 会報部長 辰巳和司

印刷／製本 (有)小松茂印刷所

盛岡市大沢川原2-5-37

019-623-6073

■□盛岡山友会のホームページ□■

http://www.geocities.jp/morioka_sanyukai/

～里山からヒマラヤまで安く、楽しく、安全に!～